

# 古代史空白の 150 年をホツマツタエで考察する

林 ひろゆき

## はじめに

ホツマツタエとは、天地開闢から始まり、クニトコタチからオシロワケ（12代、景行天皇）までを、オシテ文字を使用し、五・七調で記述した、景行天皇(71~130年)の命により編纂された、古代文献とされている。

偽書説は、ホツマツタエは言葉が新しく、漢字伝来以前の言葉とは思えない記紀を参考にして、神道関係者が江戸時代に書いたと、全てを否定する。それに対して真書説は、記紀と対比比較した結果、記紀の原典であり、縄文から弥生時代を記述した、景行天皇の時代に編纂された古代文献と主張する。

私は、原本のホツマツタエは、漢字伝来以降の 500 年頃に編纂された真書と考える。しかし現存するホツマツタエは、記紀の原典とするため、意図的に書き換えられたと考える。詳細は、記紀と対比させながら説明します。

## ホツマツタエを考える

タケヒト（イワレヒコ）の在位期間に関する抜粋

### ・ホツマツタエ 27アヤ

ミヲヤアマキミ

タケヒトハ トシソキナレハ

ワカカワリ タネコカタスケ

ヲサムヘシ

ウガヤフキアエズ（臨終の言葉）

タケヒト(イワレヒコ)は 15歳になったら

我がかわり タネコが助け

国を治むべし

### ・ホツマツタエ 29アヤ

タケヒト ヤマトウチノアヤ

キミトシヨソキ モノカタリ

タケヒトとナガスネヒコの戦い

君（タケヒト）45歳の物語

・ホツマツタエ 30アヤ  
 トキニカシハラ 時に樞原  
 スヘラキノ ミヨアラタマノ スエラギの 御代アラタマの  
 トシサナト アスス58年即位

・ホツマツタエ 31アヤ (アスス133年)  
 ナソムトシ ムツキノモチニ タケヒト76年 1月15日  
 ミコトノリ ワレステニヲイ ミコトノリ 我すでに老い  
 中略 中略  
 カミトナル 死して神となる

・ホツマツタエ27アヤは、タケヒト（イワレヒコ）の正統性を示すと共に15歳で即位した事を示唆している。しかし40年以上経って即位し在位期間は75年で、訳が分からない。そこで在位期間に関する暦が、4倍になっていると考えた経緯を、日本書紀とホツマツタエの対比表で説明します。

・イワレヒコの年齢対比表

(Cは、ホツマツタエの在位期間に関する年を1/4に修正)

(数え歳)

	A.日本書紀	B.ホツマツタエ	C.ホツマを1/4に修正	
			(アスス暦)	(年齢)
イワレヒコ生年			元年	1歳
カヤ没時の年齢		15歳以下		11歳頃
東征の年齢	45歳	45歳		12歳
樞原即位年	52歳	アスス58年	アスス15年	15歳
イワレヒコ没年	127歳	アスス133年	アスス34年	34歳
在位期間	75年	75年		19年

- ・アスス暦とは、ホツマツタエで使用されている長暦。
- ・日本書紀とホツマツタエの在位期間は、一致する。

- ・ ホツマツタエを 1 / 4 に修正した C は、 11 歳頃ウガヤフキアエズの臨終に立ち合い、 15 歳になったら国を治めるように言われ、 12 歳でナガスネヒコを討ち、空位 3 年、 15 歳で即位、没年 34 歳、在位期間 19 年、イワレヒコの生年がアスス元年となり、スッキリと収まる。

A を参考にして B や C を作成する事は出来ない。 B や C を参考に A を作成したと考えるべきである。現存しているホツマツタエは B であり、記紀の原典とするため、意図的に書き換えられたと考えます。

- ・ イワレヒコの実存年代

ウガヤフキアエズ没年より 4 年目、空位 3 年に相当する天皇は仁徳天皇である。仁徳天皇から武烈天皇までと修正したホツマツタエを対比させる。



- ・(502) 梁書によれば、502年梁の武帝が倭王武を征東大將軍に進号する。これは国内不安定で、ワロケが朝貢出来なかったためと推測する。
- ・対比表を見れば分かる通り、仁徳天皇から武烈天皇の間に、修正した、ホツマツタエの初代イワレヒコから12代オシロワケが、ピタリと一致する。また、これまで誰も、正確に比定することが出来なかった、倭の五王の朝貢年も、重複することなく各大王に当てはまる。

この事により、ホツマツタエの初代イワレヒコから、12代オシロワケまでの大王は、天孫系（邪馬台国）とは別の系統であり、日本書紀の16代仁徳天皇から、25代武烈天皇の間に存在していた、大王である事が分かる。

記紀の編纂に当たっては、ヤマト王権（天孫系）の正統性を確立するため、原始神道系大王の在位期間を4倍とし13代成務天皇の上へ移動させたと考る。また記紀には、邪馬台国も倭の五王も出てこない、これは中国の史書に記載されているので、記紀との間に齟齬が生じる。そのため削除せざるを得なかったと考る。

これまでの事で、倭の五王以前の空白の150年は、天孫系と原始神道系の、二朝時代であった事が分かる。

#### ・倭の五王

倭の五王は、原始神道系の大王であり、天孫系を併合する事で、韓半島の任那（旧、狗邪韓国）に関わる事となり、中国へ朝貢する。

倭の五王以前は、交易はあったが、朝貢は無い。原始神道系の国々は、魏志倭人伝の倭種に当たる。

倭王興（ミヤリヒコ）には、ハツコシラスメラミト（初めて国を治めた王）と神武天皇と同じ称号がつけられている、また次の代の倭王武は、宋の順帝への上表文で、倭国全土、韓半島南部、全てを制圧したと、誇らしげに

うたいあげている。この事から倭王興や倭王武の時代、倭国は原始神道系の大王により完全に統一され、天孫系の継体天皇まで続いた。

ホツマツタエによれば「ヒウカ」とは、日の向かう方向で西国（九州）を、「ヤマト」とは、日のモトの事で国の中心（ヤマト地方）を、「ホツマ」とは日の昇る方向で東国（関東）を意味する。

ホツマツタエとは、「関東伝え」であり、倭の五王は関東から出た大王と考える。

また、稻荷山古墳出土の鉄剣が通説通り 471 年なら、倭王興(ミヤケリヒコ)の年代となり、都は磯城ミズカキの宮であり、シキ宮が一致する事から埼玉古墳群との関係が、解明されればと考える。

#### ・記紀と邪馬台国の関係

ホツマツタエでは、イワレヒコと、ナガスネヒコの戦いは、近江のイワレヒコと、ヤマトのナガスネヒコとの王位継承争いで、1 年以内で終了している。しかし古事記の東征は、日向の国を出て、宇沙から岡田宮の筑紫 1 年、阿岐 7 年、吉備 8 年、と 16 年である。これは天孫系（邪馬台国）の東征であり、記紀により合成される。

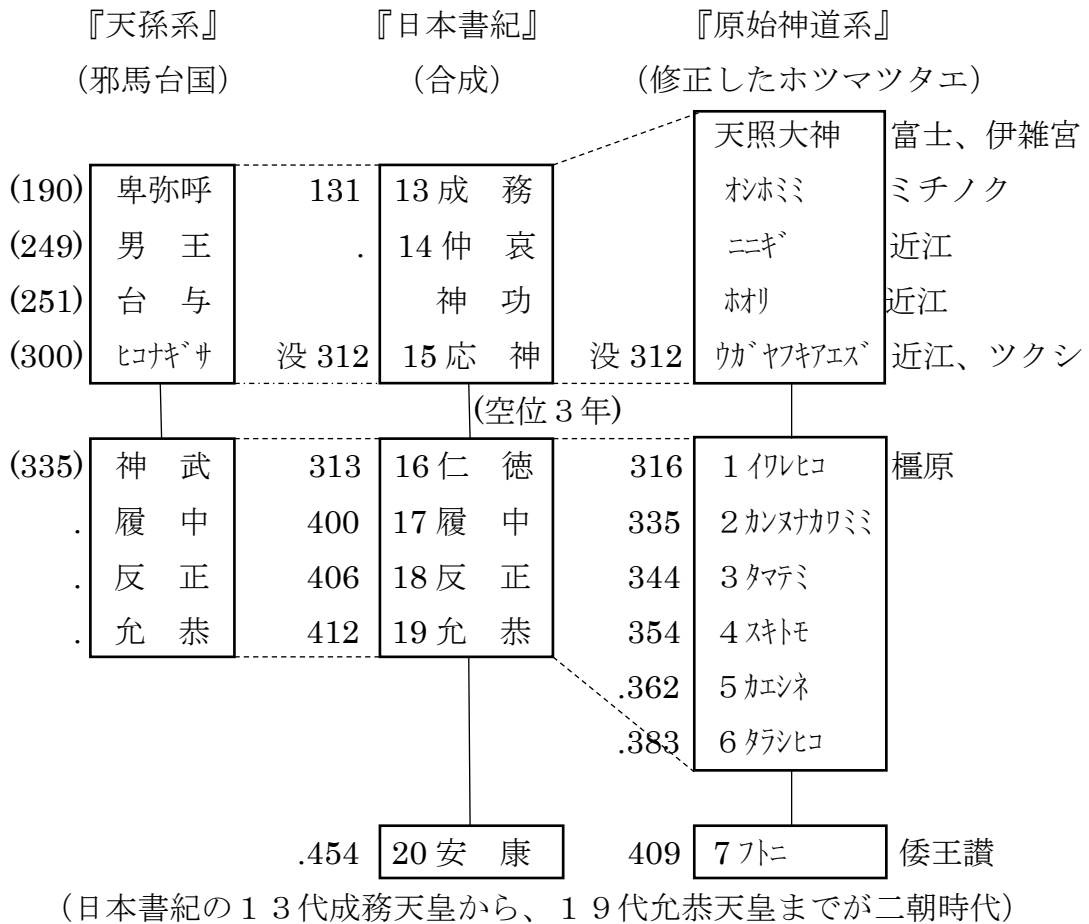
また、新唐書には、彦瀲（ヒコナギサ）の子、神武、大和州に移り統治、天皇を号とす。彦瀲は天御中主より 32 世、筑紫城に居住、尊を号とす、と有る。（32 世は応神天皇に当たる）

上記により、日向のヒコナギサ（天孫系）は、ツクシのウガヤフキアエズ（原始神道系）を討ち、筑紫を都とする。日向の神武（天孫系）は、ヒコナギサの命により、橿原のイワレヒコ（原始神道系）を討ち、大和州に移り統治したと考える。

天孫系のヒコナギサと原始神道系のウガヤフキアエズが、また、天孫系の神武と原始神道系のタケヒト(イワレヒコ)が、それぞれ、記紀により合成された。

・日本書紀と邪馬台国との対比表 (全体の系譜は、添付一表2)

( ) は推定即位年



・日本書紀で、倭王讚からオシロワケ(原始神道系大王による治世)に対応している天皇は、20代安康天皇から25代武烈天皇ある。

『修正したホツマツタエ』 (ホコウ.没年) (倭王讚.即位年)

$$513 - 409 = 104 \text{年}$$

『日本書紀』 (武烈天皇.没年) (安康天皇.即位年)

$$506 - 454 = 52 \text{年}$$

日本書紀では、原始神道系の倭王讚からオシロワケに対応している、安康天皇から武烈天皇の在位期間を1/2とし、仁徳天皇から允恭天皇の在位期間を、引き伸ばしている。この事から13代成務天皇から19代允恭天皇までは、天孫系（邪馬台国）に対応していると考える。  
 また13代成務天皇の即位年131年は、神武天皇の即位年BC.660年に合わせるため、成務天皇から応神天皇の間も、在位期間を引き伸ばしている。

- ・日本書紀は、原始神道系天皇の治世(104年)を、1/2とし下表のように振り分ける。(即位年の算出方法は、添付一表1)

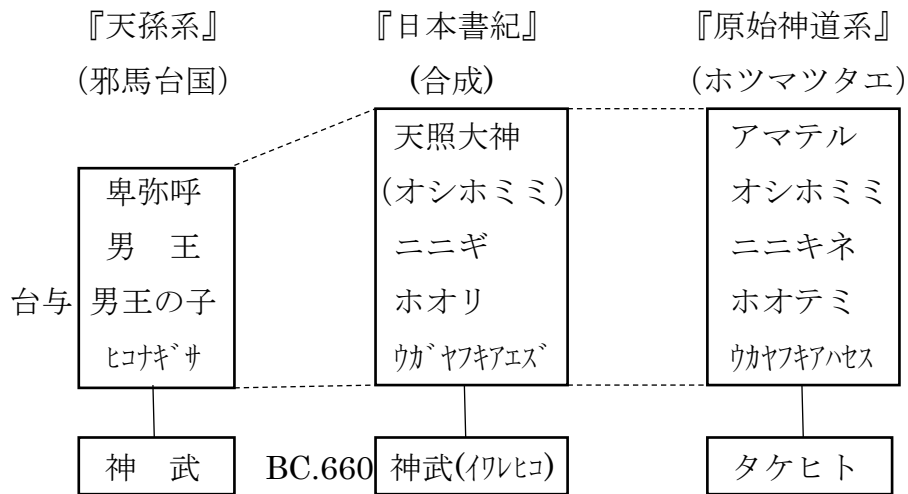
	日本書紀	修正したホツマツタエ	
454~506 (52年)	454	20.安 康	409~513 (104年)
	457	21.雄 略	
	480	22.清 寧	
	485	23.顕 宗	
	488	24.仁 賢	
	499	25.武 烈	
没 506		没.513	
[514]. 507	26.継 体		

- ・1/2にした在位期間(52年)を、武烈天皇の即位年499年で振り分けている。

フトニからオシロワケ90年(499-409)を、安康天皇から武烈天皇45年(499-454)とし、残り45年を仁徳天皇から允恭天皇の引き伸ばしにあてる。また、オシロワケ在位期間14年(513-499)を、武烈天皇在位期間7年(506-499)とし、残り7年を継体天皇の引き伸ばしにあてる。

上記より、継体天皇の即位年(507年)は、514年と考える。また、仁徳天皇から允恭天皇と、継体天皇とが同じ引き伸ばしの対象と、なっている事から、邪馬台国と、継体天皇から続くヤマト王権は、同じ天孫系と考える。

・神話の合成



記紀は、原始神道系の神話に、邪馬台国を合成するにあたり、オシホミミを天孫降臨しなかった事とし、代数を合わせる。また、台与は神功皇后で表現する。

・天照大神

ホツマツタエによれば、ソサノヲは、アマテル神の弟で、ソサ（紀州）の生まれ、伊雑宮のアマテル神により、イズモへ追放され、ヤマタノオロチを退治する。

また、アマテル神が后を亡くし、部屋に籠もっているのを心配して、部屋の外で女性が踊る話がある。

これらの話に登場するアマテル神と卑弥呼を合成、卑弥呼の都（山上、もしくは、高台）を高天ヶ原に見立てて、神話を作成する。

・日向三代

ホツマツタエに、天孫降臨神話は、存在しない。この神話は、邪馬台国を表現している。ニニギ、ホオリ、ウガヤフキアエズは、日向三代と言われているが、ホツマツタエでは、近江の人達である。この三人と、日向の、三人の王である、男王、男王の子、ヒコナギサを合成し神話を作成する。

・神武天皇

神武天皇は、ナガスネヒコを討ち橿原で即位した原始神道系のタケヒトと、日向から東征した神武を合成し神話を作成する。



## ・終わりに

私なりにホツマツタエを、検証した結果、原本のホツマツタエは、500年頃に編纂された、真書であったと考える。偽書と考える人達は新しい言葉をみつけは指摘するが、ホツマツタエが編纂されて1500年、虫食いなどによる、穴埋めも何回かは、あったと考える。その時代、時代に前後の文脈で穴埋めをしている。新しい言葉が、入る事もあると思う、また文字に意味付けをしているが、ホツマツタエを読み解くため、後世の人が創作したと推測する。

ホツマツタエは、漢字伝来以降の文献で、うがった見方をすれば、漢字文献であったが、漢字伝来以前の文献とするため、ヲシテ文字を使い、年代を改ざんしたとも、考えられる。

現存する、ホツマツタエは、記紀の原典とするため、邪馬台国と、倭の五王に関する事柄は、系譜も含め削除、書き換えがある。系譜は天皇制とセットで600年頃、神話や事績は記紀編纂前の700年頃に、書き換えられたと推測する。また、日本武尊は天孫系の英雄とされているが、原始神道系の大王、オシロワケの皇子である。

欠史八代と言われる、2代カヌヲカミ（綏靖天皇）から9代材比（開化天皇）までは、ホツマツタエにも、事績が記されていない。この時代は、天孫系と原始神道系とが、争っていた時代で、ホツマツタエの原本には、その様子が記されていたに違いなく、記紀の原典とする時点で削除される。

また、ホツマツタエの王位継承は、当時普通に行われていた兄弟継承が無く、全て父子継承となっている。これは、2倍暦で記されていた、原本ホツマツタエの天皇在位期間だけを、更に倍の4倍とした事による、年数の不整合を調整するため、全て父子継承に書き換えられたと推測する。

この天皇在位期間を、更に倍とした事が、現存するホツマツタエの中に、2倍や4倍と思われる年数が、混在している原因と考える。

現存する、ホツマツタエは、残念ながら原本ではなく、700年頃に書き換えられた文献の写し又は、それ以降にまとめられたものと考えられる。しかし、原本のホツマツタエは、500年頃に編纂されており、内容的には貴重で、研究、検証すべき日本最古の文献と考える。

添付一表 1 即位年の修正

ホツマツタエのアスス暦(即位年)を、1/4 にして 316 年より順次累計する。

	A	B	即位年
	アスス暦	(A-1)÷4	B-14.25+316
	タケヒト生年	元年	0
BC660	1.タケヒト (神武)	58	14.25
	2.カカワリミ (綏靖)	134	33.25
	3.タマテミ (安寧)	170	42.25
	4.スキトモ (懿徳)	208	51.75
	5.カエシネ (孝昭)	243	60.5
	6.タリヒコケニ (孝安)	326	81.25
	7.フニ (孝霊)	428	106.75
	8.ケニクル (孝元)	504	125.75
	9.フトビ (開化)	561	140
	10.ミマキ (崇神)	621	155
	11.イクメリヒコ(垂仁)	689	172
AD.71	12.ヲシロワケ (景行)	788	196.75

- ・ 武烈天皇即位年 499 年で、引き伸ばしの振り分けをしている事から、ヲシロワケ即位年 499 年と合っているものと考え、0.25 年は切り捨て、0.5 年からは切り上げとし、即位年とする。

日本書紀の BC660~AD71(神武天皇~景行天皇)までを 1/4 に修正

$$(660+71-1) \div 4 = 182.5 \text{ 年}$$

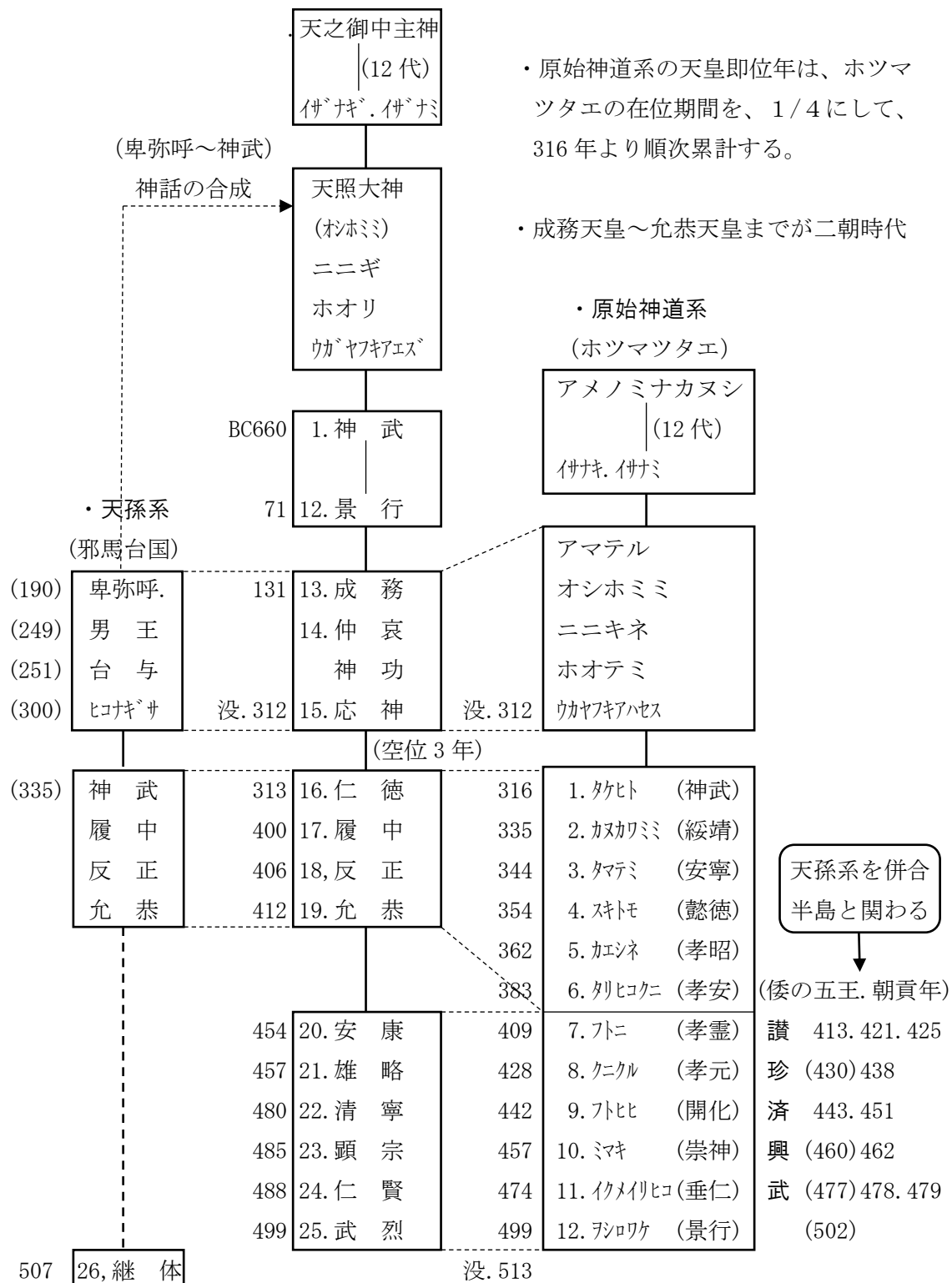
ホツマツタエ (タケヒト~ヲシロワケ) を 1/4 に修正

$$(表より) 196.75 - 14.25 = 182.5 \text{ 年}$$

上記より、1 年を 4 年とし、月まで考慮して算出したと考える。

添付一表 2 繼体天皇までの系譜

( ) は、推定即位年 ・日本書紀



[514]

- ・倭の五王、朝貢年の ( ) は、朝貢した王の名が不明。
- ・(502)は国内不安定で、フシロワケが朝貢出来なかった為と推測。